



新潟県立加茂農林高等学校 環境緑地科 緑地工学コース

定員 20 名

本校は明治 36 年 5 月に新潟県立農林学校として開校し、今年で創立 114 年を迎えた県下でも屈指の伝統校です。4 学科 9 コースからなり、その中に環境緑地科緑地工学コースがあります。緑地工学コースは自然環境に配慮した持続可能な社会づくりを目指して、森林管理や資源の利用、生活空間の緑化などについて学習しています。

演習林では下刈りや間伐、簡易作業路づくりなどを学ぶとともに、管理実習で得た木材を活用した木工品の製作やキノコ栽培を行います。また、加工途中で出た廃材や森林荒廃の原因となる竹などを自作の黒炭窯で炭化し利用する研究をしています。

平成 29 年度より文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH) 事業の指定を受け、関係機関から講師を招いた授業や、ドローンの導入による ICT 技術の学習など、森林・林業を幅広く学べる環境を整備し、自ら未来を切り拓く人づくりに取り組んでいます。

生徒の声 環境緑地科緑地工学コース 3 年

私たちは 2 年生から緑地工学コースに分かれ、測量や森林科学、造園、林産物などを勉強しています。昨年、地域連携の一環で近隣の中学校に出前授業に行きました。木のぬくもりや木工の楽しさを伝えるため、箸づくりを体験してもらいました。準備は大変でしたが、中学生の反応は想像していたよりもよくて驚きました。林業はやりがいのある仕事です。これからもその魅力や大切さについてたくさんの人たちに伝えていきたいです。



緑地工学コースの生徒



簡易作業路づくり



原木栽培によるシイタケの収穫



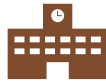
黒炭窯利用の研究



SPH 事業によるドローン操作演習



地域連携 “My 箸づくり” 体験



徳島県立那賀高等学校 森林クリエイト科

定員 20 名

徳島県立那賀高等学校森林クリエイト科は、持続可能な循環型社会の形成に向けた、人と森林の新たな関わり方を創造し、地方創生を担う人材の育成を目標とし、森林を創造的に学ぶ県内唯一の単独学科として、平成 28 年 4 月に新設されました。学校敷地内には、学生寮が設置されており、県外出身の生徒も少なくありません。

大学進学や公務員を含む就職など多様な進路に対応したカリキュラムが設定され、林業実習フィールド「フォレストキャンパス那賀（県有林）」での植林、伐倒実習や高性能林業機械運転体験、製材実習棟での木質商品開発に加え、和紙や炭作りなどの伝統文化も学ぶほか、ドローンの利活用モデルの構築にも取り組んでいます。

また、林業先進国であるドイツへの生徒派遣などの国際交流も行われています。

外部講師も充実しており、将来の仲間や後継者を育成したいという思いから、徳島森林管理署職員や県林務職員をはじめ、地元林業事業者や若手林業グループ「山武者」も支援している、地域と密に連携した学校です。

生徒の声 森林クリエイト科3年

私の住む地域と自分の将来を考えて、那賀高校森林クリエイト科へ入学しました。体を動かすことが好きなので、校内での木工や和紙づくり、フォレストキャンパス那賀での伐採や植栽など、実習時間が豊富なことが、このクラスの一番の魅力です。また講師には、国有林の職員による出前授業、「山武者」の皆さんによる大型機械の運転指導など、地域の最前線の人から専門分野を学べるので、勉強になります。3年生になった今年は、大学進学や就職など、希望進路に応じた先生方の熱心な指導を受けられるので、とても恵まれていると思います。



フォレストキャンパス那賀で（2期生）



伐倒実習



“山武者”が高性能林業機械の指導



徳島森林管理署の出前授業



ドローンの操縦実習



ドイツ・ニーダーザクセン州との交流